



学校だより 10月号

その2

- 教育目標
- 1 深く考え、進んで学習する
 - 2 責任を重んじ、規律正しく行動する
 - 3 心身を鍛え、情操豊かにする

校長：中山 幸子
 港区西麻布四丁目14番8号
 電話：03-3409-7687

港区立 高陵中学校 Koryo Junior High School

学ぶ意味について～2つの朝礼から～

校長 中山 幸子

9月の全校朝礼で、「なぜ学ぶのか」というテーマで一杯のコップの水をパワーポイント資料に用いて、話しました。以下は一部抜粋です。

一杯のコップの水から



数学を学べば

- 量を知る力
- 「測る力」は、目に見えないものを見える化するために活用できる。

地理を学べば

- 安全な水が飲めない地域を知る。
- 地球規模でものごとをとらえる力を得る。
- 世界を知る力

社会を学べば

- ・つながりを知る力
- この水は、どこから来たのか？
- 誰が水道を整備し、誰が支えているのか？
- 社会の仕組みを知る。

理科を学べば

- しくみを理解する力がつく。
- 水は酸素O₂と水素Hで構成されている。
- 表面張力・沸点・凝縮などの現象の裏に、科学のルールがある。

音楽を学べば

- コップの水量によって音階が違い、音楽を奏でられることを知る。
- 波紋のリズム、注がれる音
- 水の音を知る。

英語を学べば

- 水について他国の人と共有する、懸け橋になる。
- This glass of water teaches us everything.
- 言葉の壁をこえて、世界とつながる手段

道徳を学べば

- 水を必要とする誰かと分かち合う心を知る。
- 水を「ありがたい」と思える心
- どう生きるかを考える力

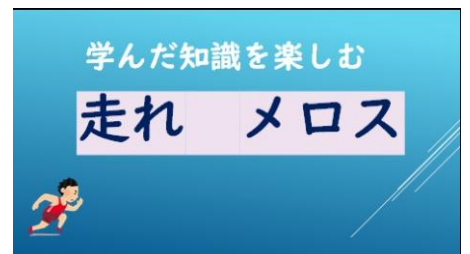
美術を学べば

- 見る力・感じる力がつく。
- 光が当たると、どんな色に見える？
- 水面のゆらぎやコップの形から、何を感じる？
- ・描き方やそのときのとらえ方で、表現が変わる。
- 表現方法や技を得る。

「コップに入った、ただの水」は、学んでいる教科の見方で捉え方が違って来る、そしてそれは教養とも言えるものになります。テストに関係なく人としての学びを学校では行っています。長い2学期、学習にどのように取り組むかは自分次第となるのです。1枚目の写真を見せたとき、全校生徒にこれを見て何を感じ、思いますか？と問いかけました。説明を聞いた後に、何が残ったかで学びに向かう意欲も違ってきてほしいと願っています。

そして、10月27日の朝礼では、「学んだ知識を楽しむ」と題して理科要素の切り口で『走れ メロス』について、話しました。(一部抜粋)予想外にICT機器の不具合もあり、結論が出てしまったのは残念でしたが、なぜ？と思ってくれたら不幸中の幸いとなり得たのではと

裏面へ



ポジティブに思うようにしています。太宰治の比喩表現をもとに、速度を考えます。理論上でわかる速度が現実には起きたとしたら……。

科学者の柳田先生の有名なお話ですが、ここで伝えたかったのは実際に起きたら、どんな状況になるのか？計算したり、調べたりすることで、現実的にどのような現象が生じるのかなど、中学生でもわかるぞと感じてほしいのです。

そして、自分で納得する答えや結果を出せる手応えを経験してほしいと思います。これらは今までの学習で十分、理解できるものです。

物事の本質は何か、知りたいことを探究する、周囲の意見や既成概念にとらわれない柔軟な見方をもってほしいのです。

学ぶとは、成績表のためだけではなく人としての豊かさにも直結します。みなさんの学びは、これからも形を変えて続いていきます。

「少しずつ沈んでいく太陽の、十倍も早く走った」



▶地球の自転を太陽の速度に置きかえる。




地球が自転しているけど、太陽が回っているように見えるよね。

マッハ11

新幹線のぞみの速度の4.4倍

秒速 3700m

着ている服も破ける！



人類最速100M

ウサインボルト氏

9秒58

メロスが100m走ったら

0.02秒

それだけではない！メロスが走ると



半径2km

衝撃波が生じる

【地域と連携した防災訓練を実施しました】

本校では、地域の皆様と協力して防災訓練を行いました。1年生は「救急救命講習」を受講し、心肺蘇生法やAEDの使い方を学びました。2・3年生は、より実践的な体験を通して防災力を高めました。内容は以下の通りです：

- ☑ 煙ハウス体験(煙の中での避難行動)
- 🔥 初期消火訓練(消火器の使い方)
- 🚻 トイレテント設営(災害時の衛生管理)
- 🏠 防災用テント
- 🛖 段ボールハウス設営(避難所生活の体験)
- 🛠️ リヤカーの組み立て操作
- 🚑 担架操作(けが人の搬送方法)



生徒たちは、災害時に自ら考え、行動できる力を身につけました。今後も地域と連携しながら、命を守る学びを深めていきます。

